

ナンバリング	B②10	科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)
担当形態	複数	担当教員	小木曾 友則・由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館. 「保育所保育指針解説」フレーベル館. 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館. その他適宜資料を配布する。		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	1. 保育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を理解し、説明することができる。 2. 保育者としての職責や義務を自覚し、目的や状況に応じた適切な言動をとるとともに、他の保育者と協働する力を説明することができる。 3. 子どもの発達や心身の状況を踏まえて幼児理解を深め、信頼関係の構築や集団づくりに必要な学級経営の在り方について説明することができる。 4. 保育内容に関する基本的な知識や技能を理解し、子どもの反応や育ちの状況に応じて指導内容や保育形態を提示できる。		
授業の概要	本講義は、本学の学びの軌跡の集大成として位置付けられる。自己の課題を自覚し、必要な知識や技能等を補い、主に保育・福祉など人と関わる専門職として円滑なスタートがきれるようにする。 本講義では、対話やグループワークを中心に以下の内容を学ぶ。 実習等の体験と結びつけながら「①保育者の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理」「②社会性、対人関係能力」「③子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携」「④保育や子育て家庭に対する支援の展開」を振り返る。 保育に関わる今日の社会的状況等の課題について自ら問いを立て、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法等について検討する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション これまでの実習と学内の学びを振り返って(教職カルテについて) 第2回 保育者の意義・役割・責任 第3回 教育的愛情と子ども理解 第4回 社会性・対人関係能力の基礎		

	<p>第 5 回 協働する保育者</p> <p>第 6 回 保護者・地域との連携</p> <p>第 7 回 幼児理解の深化</p> <p>第 8 回 個別のニーズへの対応</p> <p>第 9 回 集団づくりと学級経営</p> <p>第 10 回 学級経営案の作成</p> <p>第 11 回 保育内容の理解</p> <p>第 12 回 指導内容・保育形態の工夫</p> <p>第 13 回 教材研究と工夫</p> <p>第 14 回 現代的課題の理解</p> <p>第 15 回 自己課題の明確化とまとめ</p>
準備学習と必要時間	<p>予習として、毎回授業計画に示された内容に関して、資料を検索し確認を行う。(60分) 復習として、毎回講義のテーマに関して講義資料をもとに振り返る。(30分)</p>
評価方法	<p>受講態度(20%) 授業課題(60%) 期末レポート(20%)</p> <p>受講態度は、授業中に提示した課題に責任を持って取り組む、質問に対する応答やグループ討議での積極性、発表時のまとめ方等から「関心・意欲・態度」及び「技能・表現」の到達度を見る。</p> <p>授業課題は、授業終了時の振り返りシート、提出課題から授業内容に関する「知識・理解」及び「思考・判断」の到達度を見る。</p> <p>期末レポートは、自己の課題を踏まえ今後の取り組むべきことを問い「知識・理解」及び「思考・判断」の観点から到達度を見る。</p>
参考文献	<p>授業中に適宜示す。</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンまたはタブレットを毎回持参すること。 ・Google Classroom から講義資料の配信、授業課題の提示を行う。 ・他の受講者に対する迷惑行為(私語、飲食、講義と無関係なスマートフォンの使用複数回に渡る退室や明確に受講意思のない居眠りなど)と判断される行為はその回の受講態度の減点となる。講義の進行を妨げる場合は受講態度を大きく減点する。 ・本講義では、生成 AI の利用については「使用可能範囲」と「使用禁止範囲」を設けている。これは遵守してほしい。
課題へのフィードバック方法	<p>提出課題に対しては教員がコメントを行い、次回の授業冒頭で他の学生の取り組みを紹介する。</p>

卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育実践に関する科目
	その他		保育士資格	必修	総合演習
教員の実務経験	(小木曾)保育所及び幼保連携認定こども園で勤務した経験を踏まえ、具体的な事例を利用しながら実践的な講義を展開する。				